

【復興交付金事業計画の総合的な実績に関する評価様式】

計画名称	
階上町復興交付金事業計画	
計画策定主体	
階上町	
計画期間	
平成23年度から平成27年度まで	
計画に係る事業数	
4事業	
計画に係る事業費の総額	
447,687千円（内復興交付金分438,588千円）	
東日本大震災による被害の状況に対応した復興まちづくりの現状	
<p>【被害状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成23年3月11日14時46分に発生した東北地方太平洋沖地震は、我が国の地震観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、この地震により発生した巨大津波は、全国の太平洋側の全域に襲来し、特に三陸地方の各地では内陸部まで押し寄せるなど未曾有の大災害をもたらし、多くの貴い人命を奪い去った。</li> </ul> <p>震度5強という強い揺れを観測した当町では、幸いにして人的被害はなかったものの、住宅の全壊、半壊はもとより、基幹産業の漁業は、漁業関連施設や漁船被害、漁労設備などに壊滅的な被害を受け、沿岸部を中心に大きな爪痕を残した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 被災総額：13億3,600万円</li> <li>● 被災施設等： <ul style="list-style-type: none"> <li>・住居等被害 住家被害13棟（うち全壊7棟）、住宅兼店舗8棟（うち全壊5棟）、店舗7棟（うち全壊4棟）、附属家15棟（うち全壊9棟）、浜小屋49棟（うち全壊49棟）</li> <li>・全壊又は半壊した公共施設 大蛇集会所、東部地区海産物加工施設、海産物簡易加工処理センター、防災無線柱（大蛇漁港付近の1基）、大蛇漁業集落排水処理場、大蛇公衆トイレ</li> <li>・一部損壊した公共施設 階上小学校、小舟渡小学校、石鉢小学校、階上中学校、道仏中学校、道仏公民館、ハートフルプラザ・はしかみ、</li> </ul> </li> </ul>	

石鉢ふれあい交流館、中央体育館、町民体育館、榊公衆トイレ、荒谷公衆トイレ、大蛇駐車場（擬木倒木）、道路（榊・小舟渡線一部塗装剥離）

・漁港被害

小舟渡漁港	臨港道路、用地舗装、内北防波堤（消波ブロック散乱）、道仏東防波堤（消波ブロック散乱）、外北防波堤（胸壁工）
大蛇漁港	用地舗装、-2.0m泊地浚渫、-3.0m泊地浚渫、-3.5m泊地浚渫、北護岸（消波ブロック散乱）、南防波堤（消波ブロック散乱）
追越漁港	用地舗装、-2.0m泊地浚渫
榊漁港	用地舗装

- ・漁業関連施設被害 種苗施設（全壊（大蛇））、巻上機（全壊 11、）荷捌所（半壊 1）、冷蔵庫・氷蔵庫（浸水半壊）、地上A重油タンク（浸水半壊）、漁具倉庫（半壊 9）
- ・漁船被害 流出 53 隻、沈没 15 隻、損壊 56 隻
- ・漁具、漁場、水産物等被害 水産資源（ウニ、アワビ、わかめ等）、漁具（船外機、網、縄、たこ籠、ロープ等）
- ・東日本大震災時における最大避難者数：125 人
- その他の被害：商工業施設、酪農家生乳など

【復旧状況】

階上町震災復興計画（平成 24 年 2 月）を策定し、「復旧から復興 そしてさらなる発展へ」を震災復興の基本理念に掲げ、「被災者の生活再建」「産業と経済の再建」「災害に強いまちづくり」「インフラ整備」の 4 つの基本目標を定め、町民と行政の絆をこれまで以上に深め、一丸となって取組を進めてきた。

階上町総合振興計画の計画期間が平成 31 年度までとなっており、平成 22 年度から平成 26 年度までが前期計画、平成 27 年度から平成 31 年度までが後期計画となっていることから、震災復興計画の期間を平成 31 年度までとし、緊急度等に応じて復旧目標時期を復旧期と復興期に分けて、年度ごと

に進捗を管理し、必要な取組は適宜前倒して実施するなど、早期の復旧・復興を目指してきた。

このような取組を進めていく中で、平成 24 年度には甚大な被害を受けた大蛇地区集会所が復旧し、平成 27 年度には町道大蛇踏切・追越浜線避難路整備及び津波避難誘導標識等を設置させるなど、着実に復興事業を進めている。

#### 復興交付金事業計画における主要な事業結果の概要

##### ● 大蛇地区集会所移転新築事業

- ・ H23 年度 用地買収、立木補償
- ・ H24 年度 設計監理業務委託、用地造成、建設工事一式

工事概要 構造：木造 平屋建 カラーアルミニウム鋼板縦平葺き、  
バリアフリー、  
延床面積 481.12 m<sup>2</sup>、建築面積 513.42 m<sup>2</sup>  
用途：地区住民集会所

##### ● 津波防災対策調査事業

- ・ H24 年度 津波避難計画の策定及び公表  
津波ハザードマップの作成、町内世帯全戸配布、公表  
小中学校地震等防災応急計画の修正、公表  
津波避難対策施設整備計画の作成  
津波防災教育カリキュラムの作成、公表  
津波防災訓練マニュアルの作成、公表

##### ● 町道大蛇踏切・追越浜線避難路整備事業

- ・ H25 年度 測量、設計、調査
- ・ H26 年度 用地買収、物件移転補償、道路拡幅工事
- ・ H27 年度 物件移転補償、歩道橋整備工事、附帯工事

工事概要 道路拡幅工事 L=281.2m、幅員 W=4.0 (5.0) m  
歩道橋整備 L= 28.0m、幅員 W=2.1m

##### ● 津波避難誘導標識等設置事業

- ・ H26 年度 工事設計
- ・ H27 年度 設置工事

工事概要 誘導標識 89 箇所 (内交付金分 61 箇所)  
ソーラー照明灯 9 箇所 (内交付金分 6 箇所)

## 復興交付金事業計画の実績に関する総合評価

## ○ 復興まちづくりにおける復興交付金事業計画の有用性、経済性

当該事業による津波防災対策調査の実施により、行政と住民との協働による津波避難計画の策定や津波ハザードマップの作成などが図られ、避難対策施設として町道大蛇踏切・追越浜線避難路整備や津波避難誘導標識等の設置により、沿岸地区の住民や観光客の安全確保が期待される。

また、大蛇集会所が震災の津波により甚大な被害を受けたため、新たに大蛇地区集会所として建設したことにより、平時には集会所機能、豪雨、豪雪等の災害時には地域防災機能を備えた施設としての役割が期待される。

このように、復旧から復興そしてさらなる発展を目指す当町にとって、事業の有効性が非常に高かったと考える。

さらに、当該事業実施については、事業費の設計・積算に当たっては青森県積算基準等により執行し、階上町財務規則等に基づき入札を実施するなど、適正なコストであり、本計画の実施における事業費は、妥当であると考えられる。

## ○ 復興交付金事業計画の実施に当たり、県又は市町村において改善が可能であった点

特にないと考える。

## ○ 総合評価

地域住民と協議を行いながら、将来、発生が予想される最大クラスの津波災害に対し、地震、津波発生直後から津波が終息するまでの概ね数時間から10数時間の間、住民の生命、身体を確保するための津波避難計画を策定し、これに基づき津波ハザードマップを作成し、町民全体へ津波避難時の避難場所や避難路の周知が図られたことや、津波避難路誘導標識等を設置したことにより、外国人を含む町外からの観光客等に対しての津波避難時の避難場所や避難路の周知が図られることなど、所期の目的は達成できたものと考えられる。

また、大蛇集会所が震災の津波により甚大な被害を受けたため、新たに

大蛇地区集会所として建設したことにより、平時には集会所機能、豪雨、豪雪等の災害時には地域防災機能を備えた施設としての役割が期待され、地域コミュニティの再生や地域防災力の向上が図られたと考えられる。

さらには、地域住民と協議を行いながら避難方針を検討し、町道大蛇踏切・追越浜線避難路整備事業により、当該事業対象区域から一次避難所であるアスナ公園への避難距離の縮小及び避難時間の短縮が図られ、安全で迅速な避難が可能となったことから、避難困難地域解消に十分な成果があったものと考えられる。

特に、住民や観光客の迅速で安全な避難を可能にしたことは、当町が掲げる防災・減災対策の推進や、震災復興計画の重点プロジェクトである災害に強いまちづくりに大きく寄与するものであり、所期の目的を十分達成したものと高く評価できる。

#### 評価の透明性、客観性、公正性を確保するための取組

青森県三八地域県民局及び青森県教育庁三八教育事務所の職員を委員とした「階上町復興交付金事業計画実績評価委員会」を設置し、本事業計画の個別的、総合的評価を合議制により実施した。

また、町のウェブサイトにて事業評価に関するパブリックコメントを実施することで、広く町民・住民の意見を聴取し、評価に関する透明性、客観性、公正性を図った（パブリックコメントによる意見なし。）。

#### 担当部局

階上町総合政策課 電話番号 0 1 7 8 - 8 8 - 2 1 1 3（内線 2 2 2）